

## 観光振興調査特別委員会調査報告書

平成21年12月18日市議会において付託された、歴史・文化遺産を活用した観光振興に関する諸種調査については、山から海まで広がる佐賀市の貴重な観光資源をどう生かすかについて、「日本の近代化を築いた佐賀藩とその人物群」をテーマに、本市の実態、他都市の事例等の調査を行い、その結果を踏まえ下記の結論に達した。

### 記

1. 徴古館に保存されている鍋島家ゆかりの収蔵品は、学術的に価値があり、観光資源としても非常に魅力が大きいものである。観光資産として活用していくためには、文化財保存という観点からも鍋島報効会と協議していく必要がある。
2. 本市には観光資源が点在しており、多くの観光客を呼び込むには、観光客がそこに行けば見たいものの大半が凝縮されているサテライト会場のような場所が必要と考えられる。今の財政事情を勘案し、既存の施設を活用するなど設置について検討すべきである。
3. 佐賀の観光振興に欠かせない新たな観光資源として、佐賀の七賢人以外の人物を探し出していく必要がある。明治期に沖縄にわたり活躍した「齋藤用之助」氏が縁で、沖縄県久米島町との交流を行っており、交流人口をふやすといったことから観光振興につなげていくべきである。
4. 市民が郷土の誇りと感じる観光資源とするためには、県外の観光客誘致のための情報発信も必要ではあるが、市民の機運を高めるために、積極的に市民に対して情報発信を行うべきである。
5. 佐賀市観光振興戦略プランを具体化するためのアクションプランについては、長期的目線での歴史的まちづくり構想や本市の歴史的資産の掘り起こし及び磨き上げを行い、お城下ナイトウォークツアーや佐嘉賢人バッジ12の製作・販売など評価ができる事業が実施されている。今後も業者等と連携して進めていくべきである。  
また、大河ドラマ等のテレビドラマの誘致などは県と連携し、率先して取り組むべきである。

以上、報告します。

平成23年10月6日

観光振興調査特別委員長  
本田 耕一郎

佐賀市議会議長  
福井 章 司 様